IT資格道場

Salesforce Platform アプリケーションビルダー 学習用テキスト

予備知識ゼロから合格ラインへ —— 読んで理解する1冊目

無料サンプル(第1章まで)

Salesforce 認定 Platform アプリケーションビルダー受験ガイド(Summer '26・Plat-App-Bldr-201)準拠
2026年11月版

SAMPLE

ご利用にあたって

- このテキストは「IT資格道場」(www.shikaku-doujou.com)の購入者限定テキストのうち、学習用テキストの第1章までを収録した**無料サンプル**です。どなたでもご覧いただけます。
- 無料サンプルも著作物です。転載・改変しての再配布・二次販売はできません。
- AI モデルの学習データとしてのご利用(学習目的の入力・データセット化を含む)はできません。
- 製品版(学習用テキスト・頻出度別ノート・暗記用ノートの3点)は、ご購入者を識別できる透かし入りのPDFとして提供されます。
- 本PDFはスマートフォン・タブレットでの閲覧に合わせたA5版面・文字サイズで組版しています。

SAMPLE

目次

第1章 Salesforce Fundamentals [1.1/1.2/1.3/1.4/1.5]

宣言的カスタマイズの境界とコードの出番 [1.1]

AgentExchange で組織を拡張する [1.2]

オブジェクト・レコード・項目のアクセスを絞る機能と広げる機能 [1.3]

要件から共有の解決策を決める [1.4]

レポート・レポートタイプ・ダッシュボード [1.5]

サンプルはここまでです

SAMPLE

このテキストは、受験ガイドの範囲を 1 冊で学ぶための学習用です。

骨組みの元は、Salesforce 公開の「Salesforce Certified Platform App Builder Exam Guide」です[1]。章は受験ガイドの 5 つのセクション、節は 26 の項目に対応します。節見出し末尾の `[1.1]` や `[3.5]` が、その項目の番号です。

受験ガイドの項目の多くは「指定されたシナリオで、〜を判断する」という書き方です。そのため各節は、機能の名前と定義、設定や手順の形、隣の機能との違い、間違えやすい点の順に並べ、場面で組み合わせて判断する段落も付けました。

SAMPLE

第1章 Salesforce Fundamentals [1.1/1.2/1.3/1.4/1.5]

Salesforce の組織は、画面の設定だけで大半の業務を組めます。コードが要るのは、設定の上限を超える処理と、設定からは呼べない仕組みに限られます。入れ物の追加、データを誰にどこまで見せるか、結果をどう見せるかも、この章の範囲です。

宣言的カスタマイズの境界とコードの出番 [1.1]

宣言的カスタマイズは、コードを書かずに Setup の画面で組む設定です。数式、入力規則、フローがその代表で、コードは要りません。プログラムによるカスタマイズは、Apex のようにコードを書いて足す方法を指します。どちらを使うかは、業務の課題とその根本の原因を見極め、工程の問題を一番よく解く自動化の手段を選んで決めます[2]。出題は「設定の上限の数字」と「この場面は設定で足りるか、コードが要るか」の見分けに集まります。

宣言でできる範囲と上限

フローは、レコードの作成や変更や削除、メールの送信、画面での入力の収集、承認の申請、別のフローの実行、外部システムの操作まで自動にできます[2]。フローを開いて編集し、作成し、有効化または無効化するには、Manage Flow 権限が要ります。この権限を持つのに管理者である必要はなく、プロファイルか権限セットに足せば持てます[2]。

宣言の道具には上限があります。下の表の数字は、場面の問題で「設定のまま続けられるか」を決める物差しです。

SAMPLE

道具	上限	読み方
数式項目の文字数	3,900 文字（空白・改行・コメントを含む）	評価の後に表示される文字は最大 1,300[3]
数式項目の大きさ	保存時もコンパイル時も 15,000 バイト	文字数とコンパイルの大きさに直接の相関は無い[3]
フローインタビューの大きさ	およそ 1 MB	大きすぎると保存も一時停止もできない[4]
有効なフローの数	フローの種類ごとに有効 2,000・総数 4,000	Enterprise・Unlimited・Performance・Developer の場合。Essentials と Professional は 5[4]
スケジュールトリガのフローインタビュー	24 時間あたり 250,000、またはユーザーライセンス数 ×200 の多い方	数える種類は、フルの Salesforce・Platform・アプリサブスクリプション・Chatter Only・Identity・Company Communities[4]

数式には、上限のほかに使えない項目があります。ロングテキストエリア・暗号化項目・Description 項目は数式で使えません。数式から参照されている項目は削除できず、先に数式から外します。ある項目の値が、その項目を参照する別の数式に依存する作りも許されません[3]。

文字数と大きさの違いは、場面で効きます。数式が 3,900 文字に収まっていても、保存時の大きさか、コンパイル時の大きさが 15,000 バイトを超えると保存できません。マルチバイトの文字を使うと、保存時の大きさは文字数と違ってきます。コンパイルの大きさは、数式が参照する項目・値・数式まで全部含めた大きさで、文字数と直接の相関はなく、TEXT・DATEVALUE・DATETIMEVALUE・DATE の関数が大きく増やします。文字数が足りない時の

SAMPLE

直し方は、数式項目を分けて、1 つの数式から別の数式項目を参照することです[3]。

設定で足りる場面と、補う道具の選び方

自動化の手段は、まずフローで解けるかを見て、足りなければ補う道具へ進みます。次の表は、場面と手段の組です[2]。

場面	手段
管理職が 2 段階で承認する休暇申請	フローの承認プロセス
契約が無い顧客にサービス契約の提案を出す	Einstein Next Best Action
人事・経理・採用チームにまたがる採用手続き	Flow Orchestration
スケジュールトリガのフローが許す件数を超える一括処理（60 万件の取引先責任者の更新）	Batch Apex
CPU を多く使う処理（複雑な割引率の計算）	Apex

外部システムとつなぐ時は、次の順で選びます。1 番目は、既製のサードパーティのコネクタ（MuleSoft for Flow の統合コネクタ）です。2 番目は、既製のコネクタは無いが API はある場合で、Setup で接続を作って HTTP コールアウトを作ります。単純な HTTP の接続なら HTTP Callout アクションでも足ります。3 番目は API が無いシステムで、MuleSoft RPA が画面を操作します[2]。名前に「コールアウト」とあっても、2 番目は Setup の画面で組む設定です。

SAMPLE

コードが要る場面の見分け

コードが要る場面は、宣言の上限や機能の外にあります。Apex は、Salesforce Platform の上でフローとトランザクションの制御文を実行できる、強い型のオブジェクト指向のプログラミング言語です。クラスとトリガの 2 つの形で保存されます。Enterprise・Performance・Unlimited・Developer・Database.com の各 Edition で使えます[5]。

場面	使う物
フローから、画面の設定には無い独自の処理を呼ぶ	InvocableMethod 注釈を付けた Apex のメソッドを、カスタムの呼び出し可能なアクション（Apex アクション）として呼ぶ
60 万件のようにスケジュールトリガのフローが許す件数を超える	Batch Apex
レコードの挿入・更新・削除の前か後にカスタムの処理をする	Apex トリガ
既製のコネクタが無く API がある外部システムとつなぐ	HTTP コールアウト（Setup で接続を作る）

InvocableMethod の Apex アクションでは、アクションが何をするかをコードの書き手が決めます。フローは、そのアクションを 1 つの部品として呼ぶだけです[2]。Apex トリガは、レコードの挿入・更新・削除などの前か後に動く Apex のコードです[5]。レコードの変更を契機に動かすだけなら、レコードトリガフローで足りる場面が多く、コードは CPU の重い計算や宣言の上限を超える件数の時に出番が来ます。

SAMPLE

Apex を本番に入れる決まり

Apex を本番に入れるには、3 つの決まりがあります。1 つ目は網羅率です。本番へ展開する前に Apex の 75% 以上が単体テストで網羅されている必要があり、トリガは全部に何らかのテストの網羅が要ります[5]。2 つ目は、本番では画面で直せないことです。Apex を Salesforce の画面で追加、編集、削除できる環境は限られます。Developer Edition の組織、Enterprise Edition の試用組織、Sandbox だけです。本番の組織で Apex を変える道は、Metadata API の deploy・VS Code の Salesforce 拡張・Ant 移行ツールに限られます[5]。

3 つ目は、実行の文脈の既定です。API 67.0 以降は、Apex のデータベース操作がユーザーの文脈で動くのが既定で、現在のユーザーの権限と項目レベルセキュリティが効きます。66.0 以前の既定はシステムモードです[5]。例外が起きたら処理は止まり、それまでに処理した DML はロールバックされます。捕まえていない例外はメールで知らされ、画面のユーザーにはエラーが出ます[5]。

場面で組み合わせます。営業部が毎晩 60 万件の取引先責任者を更新したいという場面は、スケジュールトリガのフローの上限を超えるので Batch Apex です。その Batch Apex を本番へ出す段では、Sandbox で書いて、テストの網羅率を 75% 以上にします。展開は Metadata API の deploy などで行います。本番の画面から直接直す選択肢はありません。

AgentExchange で組織を拡張する [1.2]

AgentExchange は Salesforce のパートナーが作った解決策を配る場で、旧称は AppExchange です。Salesforce Help の頁の多くは今も AppExchange と書くので、2 つの名前は同じ物を指します。Salesforce の技術者や社員が作った解決策を配る仕組みは Salesforce Labs です[6]。

SAMPLE

解決策の種類と入れ方

解決策は、未管理パッケージか管理パッケージとして組織に入れ、環境とユーザーに合わせて設定します。パッケージを入れるには Download AgentExchange Packages 権限が要ります[7]。2 つのパッケージの違いは、更新と部品の扱いにあります。

観点	管理パッケージ	未管理パッケージ
自動の更新	受けられる	更新できない
名前	名前空間の接頭辞が、カスタム項目など名前の一意な部品すべての前に付く	入れる時に Resolve Naming Conflicts Automatically を選ぶと、入れる部品の名前を Salesforce が変える

入れ方の手順は次の流れです。AgentExchange で解決策を探し、掲載の頁で Get It Now を押します。環境を選び、必要な情報を入れて、Confirm and Install を押します。パスワード付きのパッケージなら、公開元から受け取ったパスワードを入れます[7]。

入れる環境で分かれる決まりがあります。Get It Now が入れられるのは本番の環境だけで、Sandbox に入れるには Try It を選びます[7]。掲載に Get It Now が無ければ、Salesforce の外で落として使うパートナーのアプリです[7]。Test Drive は、管理パッケージを含んだ完全に動く Developer Edition の環境で、入れる前に試せる仕組みです[8]。API の解決策は、AgentExchange から直接入れられません[9]。組織の中でパッケージを入れる（またはアップロードする）のは、同時に 1 人だけです[7]。

SAMPLE

Enterprise・Unlimited・Performance・Developer の各 Edition では、入れる時にセキュリティの選択肢が出ます。Install for Admins Only は、入れる管理者とカスタマイズ権限（Customize Application）を持つプロファイルに権限を与えます。Install for All Users は、内部のカスタムプロファイル全部に与えます。Install for Specific Profiles は、カスタムプロファイルごとに Full Access か No Access を選びます[7]。

入れる前の確かめと入れた後の手当て

入れる前は、掲載の More Details タブで、対応する Edition などの技術の要件を確かめます[10]。自動の更新を受けたいなら管理パッケージを選びます[10]。入れる側の組織は、Show Dependencies の頁に載る依存の要件を全部満たさなければなりません。満たさないとインストールが通りません。たとえば、部門を参照するパッケージを入れるには、部門の機能を有効にしておく必要があります[7]。

Apex を含む部品を入れると、新しいパッケージの単体テストと、組織の全部の単体テストが走ります。最初は無効で入る部品（ワークフロールールなど）にテストが依存していると、テストが落ちることがあります。その時は、テストの失敗にかかわらず入れる選択肢があります[711]。

管理パッケージで入れた部品には、入れた後に変えられない物があります[7]。入れた後の手当ては 2 つあります。管理パッケージなら Manage Licenses でユーザーにライセンスを割り当てます[7]。パッケージに権限セットが含まれていれば、必要なユーザーに割り当てます。管理パッケージに含まれる権限セットは編集できませんが、複製するか自分で作った権限セットなら変えられ、パッケージの更新の影響を受けません[117]。

SAMPLE

パッケージと組織の上限

パッケージの部品が組織の上限にどう数えられるかは、公開の掲載かどうかで決まります[8]。

部品	数え方
AgentExchange の公開の掲載から入れた管理パッケージのカスタムオブジェクト・カスタム項目・タブ・アプリ	Edition の割り当てには数えず、組織全体の上限には数える
公開の掲載に無い管理パッケージ・未管理パッケージの同じ部品	Edition の割り当てに数える
期限切れや停止の管理パッケージのカスタム項目	Edition のカスタム項目の上限に数える（ライセンスの再有効化かアンインストールで解く）
管理パッケージのカスタムオブジェクトのレコードのデータ	組織のデータストレージの上限に数える

場面で効く組み合わせです。Enterprise Edition の組織で、カスタム項目の Edition の割り当てが残りわずかでも、公開の掲載から入れた管理パッケージの項目は割り当てを減らしません。同じ項目を、公開の掲載に無い未管理パッケージで入れると割り当てを使います。どちらの場合も、そのオブジェクトのレコードが増えるとデータストレージは減ります。

オブジェクト・レコード・項目のアクセスを絞る機能と広げる機能 [1.3]

データへのアクセスは 2 つの層で決まります。1 つ目はオブジェクトと項目の層で、権限セット、権限セットグループ、プロファイルが決めます。2 つ目はレコードの層で、組織の共有設定、ロール、共有ルールが決めます[12]。この節は 1

SAMPLE

つ目の層と、2 つ目の層を越える権限、レコードの見え方を絞るルールを扱います。レコードの層そのものは 1.4 です。

オブジェクト権限と項目レベルセキュリティ

オブジェクト権限は、データの制御で一番粗い層です。ある種類のオブジェクトのレコードを見たり、作ったり、編集したり、削除したりするのを止められ、タブやオブジェクトを選んだユーザーから隠すこともできます[12]。項目レベルセキュリティ（項目の権限）は、オブジェクトは使わせたまま、項目ごとに値を見る・編集するのを制御します。たとえば給与の項目だけを、限られた人に見せる使い方です[12]。

オブジェクト権限	できること	共有との関係
Read	レコードの参照だけ	共有に従う
Create	参照と作成	共有に従う
Edit	参照と更新	共有に従う
Delete	参照・編集・削除	共有に従う
View All Records	そのオブジェクトの全レコードの参照	共有を越える
Modify All Records	全レコードの参照・編集・削除・移管・承認	共有を越える
View All Fields	そのオブジェクトの全項目の値の参照（Read も要る）	共有に従う

表の権限は、オブジェクト権限の一覧に載る物です[13]。項目の権限の設定名は、画面で 2 通りあります。権限セットと拡張プロファイルでは Read and

SAMPLE

Edit・Read・None です。従来の項目レベルセキュリティの頁では Visible・Visible and Read-Only・None です[14]。

仕組み	1 人に付ける数	役割
プロファイル	1 つだけ（1 つのプロファイルを多くのユーザーに付けるのは可）	ユーザーの既定の設定。職務ごとに作られる[12][15]
権限セット	複数	プロファイルを変えずに権限を広げる。推奨の管理の仕方[16]

オブジェクト権限には依存の関係があります。主従関係の子に Modify All Records か View All Records があれば、親には View All Records が要ります。子に View All Records か Read があれば、親には Read が要ります[13]。依存が崩れた時は、Setup での変更なら、プロファイルか権限セットの最初の保存で Salesforce が親を直します。API での変更では直らないので、手で直す必要があります[13]。オブジェクト権限と項目の権限は、組織の保守に使う Automated Process ユーザーには効きません[13][14]。

プロファイルで無効な権限でも、割り当てた権限セットで有効なら、そのユーザーはその権限を持ちます[16]。権限セットは広げる側にだけ働くので、プロファイルが許していない権限を権限セットが足せます。プロファイルには、できるだけ Minimum Access - Salesforce（かその複製）を割り当てます。要る権限だけを、権限セットと権限セットグループで与えるのが勧めです[15]。拡張プロファイルのリストビューが有効なら、最大 200 のプロファイルの権限を、リストビューから直接変えられます[15]。

SAMPLE

項目の見え方には、項目レベルセキュリティとページレイアウトの 2 つが関わります。両方が効く時は、厳しい方の項目のアクセスが常に勝ちます。レイアウトで必須にした項目でも、項目レベルセキュリティが読み取り専用なら、読み取り専用のままです[14]。効く範囲も違います。項目の権限は、関連リスト・リストビュー・レポート・検索結果など、アプリのどこでも項目の見え方を決めます。ページレイアウトが決めるのは、詳細と編集の頁だけです[12]。項目を確実に見せたくないなら項目の権限を使います。レイアウトから外すだけの項目は、項目の権限で守られていません[14]。

この規則には例外が 2 つあります。積み上げ集計項目と数式項目は、詳細の頁で読み取り専用で、編集の頁には出ません。ユーザーが見られない項目を参照していても、見えることがあります。もう 1 つは、全体で必須の項目です。項目レベルセキュリティにかかわらず、編集の頁に出ます[14]。

場面の問題で組み合わせます。取引先の機密の項目を、1 つの権限セットを持つ人だけに見せたい時は、項目の権限を使います。ページレイアウトから外す設定は、関連リストやレポートの見え方を変えないので足りません。同じ項目がレイアウトで必須でも、そのユーザーの項目レベルセキュリティが Read だけなら、編集の頁でも読み取り専用のままです。この組み合わせでは、レイアウトの必須は効きません。

権限セットグループとミュート権限セット

権限セットグループは、職務の役割ごとに権限セットを束ねる物です。グループに割り当てたユーザーは、中の全部の権限セットを合わせた権限を持ちます。1 つの権限セットを複数のグループに入れられ、権限セットを更新すると、それを含む全部のグループに反映されます[17]。権限セットグループには状態（ステータス）があります。中の権限セットから合わせた権限の計算と、その結果の権限が、最新で、割り当てたユーザーが使える状態かを示します[17]。

SAMPLE

グループの中から権限を引く道具がミュート権限セットです。オブジェクト・項目・ユーザーの権限やほかのアクセス設定をミュートできます。ミュート権限セットは、権限セットグループ 1 つにつき 1 つまでです[18]。

ミュートが効く範囲は、そのグループに割り当てたユーザーだけです。ミュートした権限に依存する権限も、グループの中で影響を受けます[18]。同じ権限を、プロファイル・グループの外の権限セット・別のグループで持つユーザーは、ミュートされても持ったままです[18]。使い所の例は 2 つあります。権限セットが Delete を持つが、このグループの人には削除させたくなく、別のグループもその権限セットを参照していて消せない時です。管理パッケージの更新で新しい項目が来たが、まだ使わせたくない時にも使います[18]。

場面で組みます。営業のグループが、Delete の入った権限セットを含んでいます。ミュート権限セットで取引先と商談の Delete をミュートすると、グループ経由の削除はできなくなります。ところが、同じユーザーのプロファイルが Delete を許していれば、そのユーザーは削除できます。ミュートが消すのは、そのグループ経由で来る分だけで、プロファイルなど別の経路の分は消えません。

View All と Modify All と View All Data

View All Records と Modify All Records は、組織全体で、そのオブジェクトのレコードへのアクセスを与えます。共有ルールと共有設定は無視されます[19]。View All Data と Modify All Data は、全部のオブジェクトに効く組織全体の権限です。データの整理、重複の削除、一括の削除や移管、承認の管理のような仕事を持つ人に向きます[19]。1 つのオブジェクトだけを広く扱わせるなら、View All Records か Modify All Records が範囲の狭い代替です[19]。

SAMPLE

越えられない物があります。View All Data・Modify All Data・オブジェクトの View All Records・Modify All Records は、項目レベルセキュリティを越えません。項目ごとの権限か、そのオブジェクトの View All Fields が要ります[19]。あるオブジェクトの View All Records は、その標準の詳細オブジェクトへのアクセスを自動では与えません。逆も同じです[19]。これらの権限は、外部ユーザーには割り当てられません。View All Fields も同じです[19]。

権限	共有を越える	項目レベルセキュリティを越える	外部ユーザーに付けられる
View All Records／Modify All Records	越える	越えない	付けられない
View All Data／Modify All Data	越える	越えない	付けられない
View All Fields	共有に従う	参照については越える（Read 権限は要る）	付けられない

場面で確かめます。管理部が商談の重複を洗い出すために全件を参照し、給与の項目は見せたくないとします。この時は View All Records（商談）を与え、給与の項目の権限は与えないままにします。View All Data を与えても、項目の権限が無ければ給与の項目は見えません。

制限ルールとスコープルール

制限ルールは、共有で読めるレコードを、決めた条件に合うレコードだけに、さらに絞ります。レコードの見え方を絞る機能で、リストビューやレポートで絞り込むのと似ていますが、恒久です[20]。スコープルールは、ユーザーに関係するレコードだけを見せる条件を置く機能です。ユーザーが持つレコードのアク

SAMPLE

セスは制限しません。スコープで絞られても、共有設定で許されたレコードは、開くこともレポートに出すこともできます[12]。

制限ルールが使えるオブジェクトは、カスタムオブジェクト・外部オブジェクト・契約・行動・ToDo・タイムシート・タイムシートエントリです。見積は、Help の Restriction Rules の頁の一覧には載り、Restriction Rule Considerations の頁の一覧には載っていません。有効な制限ルールの数は、オブジェクトごとに Enterprise と Developer で 2 つ、Performance と Unlimited で 5 つまでです[20]。制限ルールが効く先は、リンク・リストビュー・ルックアップ・レコード・関連リスト・レポート・検索・SOQL・SOSL です[20]。View All Records か View All Data を持つユーザーには効きません。Modify All Records か Modify All Data を持つユーザーにも効きません。システムモードで動くコードにも効きません[20]。

制限ルールやスコープルールを複数作る時は、オブジェクトごとに、1 人に効く有効なルールが 1 つだけになるよう組みます。Salesforce はこの点を検査しません。2 つの有効なルールが同じユーザーに当たると、どちらか 1 つだけが守られます[20]。

場面で組みます。競合する営業チームが、同じ取引先の上に載る活動（行動・ToDo）を互いに見られないようにしたい時は、活動へ制限ルールを使います。活動は組織の共有設定だけでは、本当に非公開にしにくいオブジェクトだからです[20]。「関係する案件だけを最初に見せたいが、ほかの案件も開けてよい」なら、スコープルールです。

要件から共有の解決策を決める [1.4]

レコードの共有は、組織の共有設定で最も厳しい線を引き、そこから例外を足して広げる順に組みます。共有の仕組みは、ロール階層・共有ルール・手動共

SAMPLE

有・チームなどです。どれも広げる方向にしか働かず、組織の共有設定より厳しくはできません[21][12]。だから最初に決めるのは、そのオブジェクトを一番見せたくない人に合わせた組織の共有設定です。

組織の共有設定の選び方

組織の共有設定は、レコードに対する既定のアクセスです。設定には Manage Sharing 権限が要ります[22]。多くのオブジェクトで選べる値は、次の 4 つです。

値	意味
親レコードに連動	主従関係の詳細側のレコードは、関連する全部の主レコードで同じ操作ができる時にだけ操作できる
非公開	所有・権限・ロール階層・手動共有・共有ルールでアクセスを得たユーザーだけが触れる
公開/参照のみ	全員が参照とレポートに使える。編集できるのは所有者とロール階層の上の人
公開/参照・更新可能	全員が参照・編集・レポートに使える。共有の設定の変更と削除ができるのは所有者だけ

ほかの値は特定のオブジェクトだけにあります。Public Read/Write/Transfer はケースとリードにだけ、Public Full Access はキャンペーンにだけ付きます。View Only も特定のオブジェクトの値です[22][23]。

組織の共有設定には、組み合わせの決まりがあります。内部か外部のどちらかが「親レコードに連動」なら、既定の内部と外部のアクセスは同じにしなければなりません[23]。取引先の既定のアクセスが非公開なら、商談とケースの既定も非公開でなければならず、取引先責任者は非公開か親レコードに連動の

SAMPLE

どちらかです[23]。標準オブジェクトとの主従関係で詳細側になるカスタムオブジェクトは、組織の共有設定が「親レコードに連動」になって、編集できません[23]。

変更が効くタイミングも出ます。既定のアクセスを広げる（参照のみから参照・更新可能へ）と、変更はすぐに効きます。そのあと共有の再計算が非同期で走り、手動共有や共有ルールによる余計なアクセスを取り除きます。狭めると、共有の再計算が終わってから効きます[23]。取引先責任者の既定が親レコードに連動のとき、取引先、商談、ケースの既定を広げた変更も、再計算が終わってから効きます[23]。データが多いと再計算は長くなり、終わるとメールが届きます[23]。

ロール階層と共有ルール

ロール階層では、上のロールのユーザーは、組織の共有設定にかかわらず、下のユーザーのデータを扱えます。所有する物も共有されている物も、見たり編集したり、レポートに使ったりできます[2412]。例外は 2 つです。カスタムオブジェクトで「階層を使用したアクセス許可（Grant Access Using Hierarchies）」を外すと、レコードの所有者とアクセスを与えられたユーザーだけが触れます。外せるのは、既定のアクセスが「親レコードに連動」ではないカスタムオブジェクトだけです[2423]。もう 1 つは、フォルダをロールと共有した時で、そのフォルダはそのロールのユーザーにだけ見え、上のロールには見えません[24]。ロールを作る時は、そのロールのユーザーが所有する取引先に関連する取引先責任者・商談・ケースへのアクセスも選べます。所有者が誰でも、たとえば商談は参照だけにできます。子オブジェクトの組織の共有設定が公開/参照・更新可能なら、ここは指定できません。取引先責任者が親レコードに連動の時も指定できません[24]。

SAMPLE

共有ルールは、公開グループ、ロール、テリトリーのユーザーに、組織の共有設定の例外として広いアクセスを自動で与えます。ロール階層と同じく、組織の共有設定より厳しくはできません[21]。公開グループ、ロール、テリトリーの所属で相手が決まるので、先にそれらを作ります[12]。種類は 2 つです。

種類	共有するレコードの決め方	補足
所有者ベース	レコードの所有者（グループ・ロール・テリトリーの所属）で決める	取引先の例では、所有者に加えて関連する契約・商談・ケース（必要なら取引先責任者）にもアクセスを与えられる[21]
条件ベース	項目の値の条件で決める	条件の値は 240 文字まで。超えた文字列や選択リストの値は切り捨てる[25]

共有ルールの数は、オブジェクトごとに合計 300 までで、そのうち条件ベース（またはゲストユーザー）の共有ルールは 50 までです[21]。条件ベースの共有ルールが対応しない項目を条件にしたい時は、回避策があります。ワークフロールールか Apex トリガで、テキストか数値の項目へ値を写し、その項目を条件にします[25]。共有ルールの編集で変えられるのは、ラベル・ルール名・共有のアクセスレベルです。条件ベースなら条件も変えられます。誰にアクセスを与えるかなど、ほかを変えるには、消して作り直します[21][25]。

場面で選びます。マーケティングチーム（ロール）が所有するリードを、営業担当（ロール）に読ませたい時は、所有者ベースの共有ルールです。部門項目が「IT」の求人応募を、IT のマネージャー全員に見せたい時は、条件ベースを選びます。どちらも組織の共有設定は非公開のまま、特定のグループにだけ参

SAMPLE

照や更新を足します[21]。全員を公開/参照・更新可能に変える方法と違い、広げる範囲を絞れます。

条件ベースの共有ルールには、ロールを持てないユーザー（大量処理用のユーザーやシステムのユーザー）が所有するレコードを含めるかの選択があります。この選択は既定でオンで、保存したあとは変えられません。Spring '22 より前に作ったルールにこの種のユーザーのレコードを含めたい時は、ルールを消し、含める設定を選んで作り直します[25]。

手動共有・チーム・Apex 共有

手動共有は、共有ルールなどでは与えられない、一回限りのアクセスの例外に使います。たとえば商談を 1 件だけ同僚と共有する時で、特別なプロジェクトや不在時の代行にも使えます[26]。手動共有を作れる人は 4 種類です。レコードの所有者、階層で所有者より上のロールのユーザー（階層でアクセスを制御している場合）、オブジェクトの Modify All Records を持つユーザー、管理者です[26]。

手動共有は、既定ではレコードの所有者が変わると消えます。組織の設定「Keep manual shares when transferring records」で変えられます[26]。取引先の所有者が変わると、元の所有者が子の商談・ケース・取引先責任者に作った手動共有も消えます[26]。商談・取引先責任者・ケースを手動共有する時は、共有先が親の取引先に少なくとも Read を持つ必要があります。取引先も共有できる立場なら、親の取引先への Read は自動で付きます。取引先を共有する時、子のアクセスは、所有者の既定のアクセスより大きくできません。管理者・取引先の Modify All Records を持つ人・Modify All Data を持つ人は例外です[26]。

SAMPLE

取引先チームは、取引先とその子レコードを担当するメンバーに個別のアクセスを与える仕組みです。チームのメンバーのアクセスは、組織の共有設定と同じか、それより広くしかできず、狭くはできません[27]。取引先と商談の組織の共有設定が非公開のとき、チームのメンバーに商談へのアクセスを与えると、関連する取引先に参照のアクセスも付きます[27]。

共有ルールや手動共有で足りない時は、Apex 管理共有を使います。コードで共有を作る手段で、宣言の共有の仕組みでは届かない条件に使います[12]。

仕組み	向く場面	覚えておく動き
手動共有	1 件だけの例外	所有者が変わると既定で消える
チーム	取引先ごとの担当の組	組織の共有設定より狭くできない
Apex 管理共有	共有ルールと手動共有で足りない時	コードが要る

場面で選びます。特定の取引先で、担当の組に取引先と関連する商談へのアクセスを与えたい時は、取引先チームが合います。1 件の商談を一度だけ同僚に見せるなら、手動共有です。取引先の所有者が変わると、手動共有は既定で消えます[26]。続けて見せたいなら、設定を変えるか、手動以外の仕組みを選びます。

チームの見え方には落とし穴があります。Shelly が Marcus を、商談の Read Only で取引先チームに入れたとします。別に共有ルールが、Marcus を含む営業グループ全体に商談の Read/Write を与えています。取引先の Team Member Access のアクションは、すべての経路のうち一番高い Read/Write を示します[27]。チームメンバーのレコードは、作った時の Read Only を示しま

SAMPLE

す。グループ経由のアクセスを持つ人が足したメンバーは、取引先の所有者が変わると、Keep account team を選んでいても外れます。残すには、管理者・Modify All Data を持つ人・取引先の所有者・所有者より上のロールの人が足す必要があります[27]。

レポート・レポートタイプ・ダッシュボード [1.5]

レポートは、レポートタイプ（どのレコードと項目が使えるか）と、形式（どう並べるか）と、計算（数式・バケット）で作ります。ダッシュボードは、そのレポートを図にして、見る人ごとのデータの扱いまで決めます[28]。

レポートの形式とカスタムレポートタイプ

レポートタイプは、主オブジェクトとその関連オブジェクトの関係に基づいて、レポートが使えるレコードと項目の組を決めます。Salesforce は標準のオブジェクトに標準のレポートタイプを用意し、必要な追加のオブジェクトや項目を入れる時はカスタムレポートタイプを作ります[29]。拡張カスタムレポートタイプビルダーでは、自分に見る権限が無いオブジェクトでもカスタムレポートタイプを作れます。カスタムレポートタイプを消すと、元に戻せません[29]。

形式は 4 つで、既定は表形式（Tabular）です[30]。

形式	向く場面	動き
表形式	レコードの一覧や、総計が 1 つの一覧。一番簡単で速い	グループとグラフを作れない。Salesforce Classic の頁では、ダッシュボードに使えるのは行を制限した時だけ
サマリー	行をグループ化して小計とグラフを作る。ダッシュボードの元にできる	グループが無いサマリーは、実行の頁で表形式として表示される

SAMPLE

形式	向く場面	動き
マトリックス	行と列の両方でグループ化して集計する。ダッシュボードの元にできる	行と列のグループを 1 つずつ以上持たないと、実行の頁でサマリーとして表示される
結合	複数のブロックで別の見方を並べる	Enterprise・Performance・Unlimited・Developer のみ

形式を変えると、中身が消えることがあります。サマリー・マトリックス・結合から表形式に変えると、グループ・グラフ・カスタム集計数式はすべて消えます[30]。

結合レポートは、最大 5 つのブロックで、ブロックごとに 1 つの標準かカスタムのレポートタイプのデータを出します。共通の項目を持つレポートタイプだけを結合できます。各ブロックは最大 2,000 件を返し、5 ブロックで最大 10,000 件です。グループ化はブロックをまたいで効くので、共通の項目でしかできません。絞り込みはブロックごとに別々に加えます[31]。結合レポートは SQL の外部結合に基づき、ブロックの間に対応する行が無くても、元のブロックの行はそれぞれ結合レポートに出ます[31]。結合レポートのグラフはダッシュボードのウィジェットにできますが、レポート全体は追加できず、そのウィジェットは絞り込みができません[32]。

数式とバケット

数式には 2 種類あります。集計数式（サマリー数式）は、グループごとの集計値を計算し、列には 1 つ以上のグループが要ります[33]。金額の合計が 100 万未満なら 15% 引き、それ以上なら 20% 引きにする式を例にします。

SAMPLE

```
IF(AMOUNT:SUM < 1000000, AMOUNT:SUM * (1 - 0.15), AMOUNT:SUM * (1 - 0.20))
```

行レベルの数式は、レポートの各レコードを 1 件ずつ評価します。たとえば、各商談が完了まで何日かかったかを出します[34]。数と参照に限りがあります。1 つのレポートで行レベルの数式は 2 つまで、1 つの数式が参照できる一意の項目は 5 つまでです。同じ項目を 5 回参照しても、一意の項目は 1 つと数えます[35]。行レベルの数式は常に組織の既定の通貨を使い、レポートの多通貨の設定に従いません。結合レポートでは使えません[35]。クロスフィルタとバケットには使えず、バケット項目・集計数式・ほかの行レベルの数式は参照できません。Boolean・Timeonly・Email・Phone・複数選択の選択リストの型は対応しません。Due Date や Birthdate のような一部の日付、Billing Address のような一部のテキストも対応しません[35]。「～のある、または無い」の形のカスタムレポートタイプでは、行レベルの数式のボタンが出ません[35]。

観点	集計数式	行レベルの数式
計算する単位	グループの集計値	レコード 1 件ごと
前提	グループが 1 つ以上	1 レポートに 2 つ、参照は一意の項目 5 つまで
結合レポート	追加できる	使えない

バケット列は、数式やカスタム項目を作らずに、レポートのレコードを分類する列です。ほかの列と同じように、並べ替えと絞り込みとグループ化ができます。値が変わると、レコードは自動で別のバケットに移ります。たとえば従業員数の項目から Small・Medium・Large の列を作ります[36]。

SAMPLE

ダッシュボードと動的ダッシュボード

ダッシュボードは、元のレポートのデータを、グラフ、ゲージ、メトリック、表、テキスト、画像のウィジェットにして見せます。各ウィジェットの元のレポートは 1 つで、ウィジェットごとに別のレポートを使えます。ダッシュボード 1 つに置けるウィジェットは 25 までで、そのうちグラフと表は 20 までです[3237]。

動的ダッシュボードは、見る各ユーザーに、その人がアクセスできるデータだけを見せます。ダッシュボードの設定の View Dashboard As で、ダッシュボードを見る人（The dashboard viewer）を選んで作ります。作成、編集、削除には Manage Dynamic Dashboards 権限が要ります[28]。制限は次のとおりです。

制限	内容
非公開のフォルダ	保存できない
更新	スケジュールできない。手動で更新する
購読	できない
数	Enterprise で 5、Unlimited と Performance で 10、Developer で 3
ごみ箱	削除済みも数に入り、完全に削除すると数えなくなる

動的ダッシュボードは、プレビューもできます。View My Team's Dashboards か View All Data を持つマネージャーは、ロール階層の下のユーザーの視点で確かめられます[28]。

場面で見ます。営業マネージャーが、チームの成績を担当者ごとに 1 つのダッシュボードで見たいとします。動的ダッシュボードに担当者と製品の絞り込み

SAMPLE

を付ければ、1 枚で全体も個人も見られます[28]。ただし更新のスケジュールも購読もできません。最新にするには、手動で更新します。

レポートとダッシュボードのフォルダの共有

フォルダを作ると、共有するまで、作った人と管理の権限を持つユーザーだけが触れます。共有していない物は、My Personal Custom Reports と My Personal Dashboards の個人用のフォルダに置けます[38]。ユーザーとグループとロールごとに、フォルダへのアクセスを決められます。

フォルダのアクセス	できること
閲覧者	フォルダの中のレポートやダッシュボードを見る
編集者	見て、保存する
管理者	見る・共有する・保存する・名前を変える・削除する

フォルダのアクセスは、フォルダの中身への権限を決めません。レポートやダッシュボードそのものの権限が、中身への操作を決めます[38]。フォルダの閲覧者でも、そのレポートに Create and Customize Reports を持っていれば、レポートの名前を変えたり削除したりできます。編集者のアクセスで、そのレポートに Run Reports 権限しか無い人は、レポートを実行できますが、変更はできません。管理者のアクセスでも、Run Reports 権限しか無ければ、実行はできますが、編集も削除もできません[38]。

SAMPLE

サンプルはここまでです

続き(第2章〜巻末)は、Salesforce 問題集のご購入で、頻出度別ノート・暗記用ノートと合わせて3点すべてダウンロードできます。

Footnotes

1. Salesforce Certified Platform App Builder Exam Guide（Plat-App-Bldr-201 ・ SU '26 ）。https://trailhead.salesforce.com/help?article=Salesforce-Certified-Platform-App-Builder-Exam-Guide ↩

2. Help 「 Get Started with Flows 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=platform.process_which_tool.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4 ↩5 ↩6

3. Help 「 Formula Field Limits and Restrictions 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.formula_field_limits.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4

4. Help 「 Flow Limits per Org 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.flow_considerations_limit.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3

5. Help 「 Apex Code Overview 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.code_about.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4 ↩5 ↩6

6. Trailhead「 Install an AgentExchange Solution 」（ Get to Know Salesforce Labs ）

SAMPLE

https://trailhead.salesforce.com/content/learn/modules/appexchange-solutions/install-appexchange-solution ↩

7. Developers「Installing Packages」（Application Installation Guide）https://developer.salesforce.com/docs/platform/appexchange-install-guide/guide/appexchange-install-installation.html ↩ ↩2 ↩3 ↩4 ↩5 ↩6 ↩7 ↩8 ↩9 ↩10 ↩11

8. Help「Before You Install an AppExchange Package」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=xcloud.pkg_subscriber_before_install.htm&type=5 ↩ ↩2

9. Developers「Installation Methods for AgentExchange Solutions」https://developer.salesforce.com/docs/platform/isvforce/guide/appexchange-install-apps.html ↩

10. Developers「Prepare to Install an AgentExchange Package」https://developer.salesforce.com/docs/platform/appexchange-install-guide/guide/appexchange-install-preinstall.html ↩ ↩2

11. Help「Install a Managed Package」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=xcloud.distribution_installing_packages.htm&type=5 ↩ ↩2

12. Help「Control Who Sees What」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.security_data_access.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4 ↩5 ↩6 ↩7 ↩8 ↩9 ↩10

SAMPLE

13. Help 「 Object Permissions 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=platform.users_profiles_object_perms.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4

14. Help 「 Field Permissions 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.admin_fls.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4 ↩5

15. Help 「 Profiles 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.admin_userprofiles.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3

16. Help「Permission Sets」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.perm_sets_overview.htm&type=5 ↩ ↩2

17. Help 「 Permission Set Groups 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=platform.perm_set_groups.htm&type=5 ↩ ↩2

18. Help 「 Muting Permission Sets 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=platform.perm_set_groups_muting.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4

19. Help 「 View All and Modify All Permissions Overview 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=platform.users_profiles_view_all_mod_all.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4 ↩5 ↩6

20. Help「Restriction Rules」と「Restriction Rule Considerations」 https://help.salesforce.com/s/articleView?

SAMPLE

id=sf.security_restriction_rule.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4 ↩5 ↩6

21. Help「Sharing Rules」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.security_about_sharing_rules.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4 ↩5 ↩6

22. Help「Organization-Wide Default Access Settings」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.sharing_model_fields.htm&type=5 ↩ ↩2

23. Help「Set Your Internal Organization-Wide Sharing Defaults」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.admin_sharing.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4 ↩5 ↩6 ↩7 ↩8

24. Help「Create a User Role」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.admin_roles.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4

25. Help「Create Criteria-Based Sharing Rules」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=platform.security_sharing_rules_criteria.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4

26. Help「Manual Sharing」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.granting_access_to_records.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4 ↩5 ↩6

27. Help「Considerations for Using Account Teams」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.accountteam_def.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4

SAMPLE

28. Help 「 Dynamic Dashboards 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=analytics.dashboards_dynamic_overview.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4

29. Help 「 Custom Report Types 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.reports_report_type_setup.htm&type=5 ↩ ↩2

30. Help「Report Formats」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.reports_changing_format.htm&type=5 ↩ ↩2

31. Help「Combine Different Types of Information in a Joined Report」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=analytics.reports_working_with_joined.htm&type=5 ↩ ↩2

32. Help 「 Build a Lightning Experience Dashboard 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=analytics.dashboards_create_lex.htm&type=5 ↩ ↩2

33. Help 「 Add a Summary Formula Column to a Report 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=analytics.building_custom_summary_formulas.htm&type=5 ↩

34. Help「Evaluate Each Record in Reports with Row-Level Formulas」https://help.salesforce.com/s/articleView?id=analytics.reports_formulas_row_level.htm&type=5 ↩

35. Help「Get the Most Out of Row-Level Formulas: Tips, Limits, and Limitations 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?

SAMPLE

id=analytics.reports_formulas_row_level_limits.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3 ↩4

36. Help 「 Categorize Data with Bucket Columns 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.reports_bucketing_overview.htm&type=5 ↩

37. Help 「 Reports and Dashboards Limits and Allocations 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=analytics.rd_reports_dashboards_limits.htm&type=5 ↩

38. Help 「 Access Levels for Report and Dashboard Folders 」 https://help.salesforce.com/s/articleView?id=analytics.analytics_folder_access.htm&type=5 ↩ ↩2 ↩3

SAMPLE

Salesforce Platform アプリケーションビルダー 学習用テキスト(無料サンプル)

版

2026年11月版(Salesforce 認定 Platform アプリケーションビルダー受験ガイド(Summer '26・Plat-App-Bldr-201)準拠)

発行

IT資格道場(https://www.shikaku-doujou.com)

お問い合わせ

info@shikaku-doujou.com

Salesforce、Trailhead、Agentforce、AppExchange、AgentExchange、Lightning は Salesforce, Inc. の商標です。記載されているその他の会社名・製品名・サービス名は、各社の商標または登録商標です。

本教材は Salesforce が公開している受験ガイドなどを基に作成したもので、Salesforce, Inc. との提携・承認関係はありません。

本文・図表・設問はすべてオリジナルの著作物です。無断での転載・複製・再配布・二次販売はできません。お気づきの点は info@shikaku-doujou.com までご連絡ください。

SAMPLE